

当面の見直し項目

(原子力に依存しない社会と整合性を図れないと考えられる部分)

○ 第 2 章 ふくしまのめざす将来の姿

- ・ 個性的で活力に満ちた電源立地地域 (計画書 p36)

現計画記載内容

- ・ 歴史的意義を有する発電所や自然エネルギーを活用した発電所などの電力施設を用いた産業観光や、さまざまな交流拠点施設などを活用した観光・交流により、電気のふるさとである電源立地地域と都市との交流が活発になっています。
- ・ 発電所の有する最先端の技術などを活用した企業間の交流が進み、環境・エネルギー産業などを始めとした、多様な産業が集積されています。

○ 第 3 章 ふくしまの基本方向

- ・ 人と地域-2 将来の姿を実現するに当たっての課題
(3) 電源立地地域の振興について (計画書 p50)

現計画記載内容

本県には、会津地方の水力、浜通り地方の火力、原子力など多くの発電所が立地し、首都圏のうち東京を中心とする 1 都 3 県に対し、消費電力の約 3 分の 1 を供給するなど、電力供給県として我が国の社会経済の発展に大きく貢献してきました。

- ・ 電源立地地域においては、電力供給面で我が国の社会経済の発展に大きく貢献しているにもかかわらず、時間の経過とともに関連する税収が大きく減少するなど、地域経済への影響も生じています。また、我が国でも経年劣化等により廃止措置の段階に入った原子炉の事例も生じてきている中、県内には稼働から 30 年を経過する原子炉が存在しています。これらのことを踏まえ、地域の将来について幅広い視点から検討した上で、特色ある地域づくりを促進し、地域の活力を高めていく必要があります。
- ・ 電力産業との共生を図りつつ、発電所立地の優位性を生かして、関連する環境・エネルギー産業を始めとする新たな産業の誘致や育成を進める必要があります。

○ 第3章 ふくしまの基本方向

・ 人と地域－2 取組みの方向性

(3) 個性的で活力に満ちた電源立地地域（計画書 p51）

現計画記載内容

- ・ 電源立地地域には、国の近代化産業遺産に認定された発電所やナショナルトレーニングセンターに指定されたJヴィレッジ施設など、特色ある多様な施設があります。こうした施設を有効に活用するとともに、交流拠点施設と生活基盤の整備を進めることにより、地域間の交流を進めます。
- ・ 電源立地地域における地域振興の観点から、再生可能エネルギーの積極的な導入を進めながら、関連企業の誘致などにより環境・エネルギー産業のすそ野を一層広げるとともに、観光業を始めとした多彩な産業の育成を図ることで、自立的な地域づくりを進めます。なお、原子力発電所などの立地の調整については、地域の理解と協力を得ながら、安全性の確保と環境の保全などに十分配慮して取り組みます。